2025年5月18日（復活節第5主日、C年）

牧師メッセージ

「十字架の栄光、そして愛」

（ヨハネによる福音書13:31-35）

司祭ヨセフ太田信三

ユダが夜の闇へと出ていきました。そのときイエスは、「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。」と言いました。イエスは裏切られ、十字架にかけられます。その死は人間の目から見れば完全なる敗北であり、悲惨なものでしかありません。しかしイエスは、その時を神と御子とが「栄光を受ける時」だと言われたのです。この栄光は、自己実現の栄光とはまったく異なります。イエスは十字架に自ら上ることで栄光を受け、神は独り子を十字架に差し出すことで、栄光を受けるのです。

この「栄光」という光によって、イエスの十字架と復活の出来事を見つめることが大切です。イエスは希望をすべての人に知らせるために、十字架に上られました。自ら苦しみを引き受けることで、暗闇に生きる命と苦しみを分かち合うために、そして、死を超えた、絶望を超えた希望に、その命を導くためです。それゆえ、十字架は希望のはじまりに他なりません。ユダが夜の闇に出ていくとき、十字架の栄光＝希望の明かりが闇の中に輝き出したのです。

十字架にご自分の命を差し出してくださったイエスは言います。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」父なる神は独り子の命を差し出し、御子イエスはご自分の命をささげてくださる。そうして、どんな暗闇にも勝る希望をわたしたちにもたらしてくださいませ。それほどに人を愛し抜いてくださるのです。この父なる神と御子の、自らの命をも差し出すほどの圧倒的な愛をいただくから、わたしたちは暗闇で凍えていても、十字架の希望の灯りに照らされ、愛のぬくもりをいただくことができます。そして、今度は誰かにそのぬくもりを届ける者へと変えられます。そのとき、わたしたちは互いに愛し合う世界に迎えられているのです。

神の栄光と主イエスの栄光は、この愛の交わりの内に輝き、わたしたちはこの愛の交わりに迎えられるとき、命が輝きます。